

## 作業療法 第40巻 第1号 (通巻220号) 目次

### ◆巻頭言

[正しく恐れる](#) . . . . . 小山内隆生 1

### ◆学術部報告

[第54回日本作業療法学会の最優秀演題賞・優秀演題賞の表彰](#) . . . . . 学会運営委員会 3

### ◆第54回日本作業療法学会学会長講演

[作業の魅力・作業の力](#) . . . . . 石川 隆志 5

### ◆原著論文

[回復期リハビリテーション病棟患者における入院前と退院後の IADL 実施頻度と退院時に予測した IADL 実施頻度の比較](#) . . . . . 野村めぐみ・他 12

[学内クリニカルクラークシップの経験が作業療法学生に与える影響](#)

—混合研究法を用いた包括的検討— . . . . . 宮本 礼子・他 21

[地域在住高齢者における主観的幸福感と活動の参加状況および基本属性の関連](#)

. . . . . 木下 亮平・他 34

[訪問リハビリテーションの利用頻度を減らす際に重要視する要因](#)

—介護支援専門員と訪問リハビリテーション職の意識調査から—

. . . . . 伴野 里恵・他 42

[地域在住高齢者の健康関連 QOL に対する作業参加、環境因子、運動量の影響](#)

—構造方程式モデリングを用いた検討— . . . . . 中原 啓太・他 52

[仮設住宅入居高齢者が認識する生活課題の検討](#) . . . . . 宮寺 寛子・他 61

### ◆実践報告

[読み書きが苦手な子どもに対する Cognitive Orientation to daily Occupational](#)

[Performance \(CO-OP\) を基盤とした遠隔作業療法](#) . . . . . 塩津 裕康・他 72

[緘黙症状を呈する長期ひきこもり事例の発語と社会参加に作業療法が](#)

[有効であった一例](#) . . . . . 真下いずみ 79

[終末期がん患者に対する作業療法の実践自己評価尺度開発の予備調査](#)

. . . . . 池知 良昭・他 87

[心不全により入院した認知症高齢者に対する意味のある作業を基盤とした作業療法](#)

—急性期病棟における短期的介入の一事例— . . . . . 米嶋 一善・他 99

[小児脳梗塞後患者に対する 2 度の modified Constraint-induced movement therapy の経験](#) . . . . . 梅地 篤史・他 107

[病棟参加型 Transfer package による CI 療法が麻痺手の参加頻度へ及ぼす影響](#)

. . . . . 野口 貴弘・他 114

[低緊張の発達障害児における傾斜板の使用が描写結果に及ぼす影響](#)

. . . . . 早川 貴行・他 120

地域課題解決型授業の教育効果

～CBR プロジェクト前後比較での検討～・・・・・・・・元廣 惇・他 126

## 編集後記

▶COVID-19 が蔓延する中、不安やストレスを抱えて過ごされている方も多い。第 54 回日本作業療法学会学会長講演にあるように、改めて作業すること、人と人が関わることの意味や、私たちの暮らしや生活について考えさせられたことを実感している。生活が大きく制限される状況下で、「コロナ禍をきっかけに新たに始めてみたこと」もある。リモートでの会議や勉強会・研修会・学会もその一つで、当初は通信状況や操作に関わる不安も抱えていたが、参加への心理的ハードルが低くなったとの声も聴く。難局をどのような手段と工夫で切り抜けるのか、代替手段ではなく、発展的な新しい展開を期待したい。まさに、「作業の魅力・作業の力」である。（M・N）

▶とうとう1年が経ってしまった。新型コロナウイルスへの対応に、世の中が実質的に支配されてからである。この1年でわかったことは、社会のシステムはとても儂く、一方で人々には意外にも適応力があったということ、加えて、政治と科学は必ずしも親和性が高いわけではないということであろう。作業療法は社会のシステムの1形態として機能しているが、その根拠を成しているのは科学である。よってわれわれは、このような不確実性の高い世の中を少しでも確かなものにしていくために、これからも科学の力を信じて前に進むしかないのだと思う。そこに未来の自由を求めて、本誌への投稿が増加しているのは、まさにその未来が明るいことを暗示している。（S・N）